

近況報告

吉田博之

原研同期会には出席できずに残念でしたが、皆様お変わりなくお過ごしのことと存じます。さて、記念文集は失念し大変に失礼致しました。言訳にもなりません、私は今は山暮らしの日々で、すぐに東京にも戻ることも出来ない状況で、手元にパソコン、ワープロ等もなく所定の書式で書くこともできないうちに後れてしまいました。

近況だけでも簡単に報告させていただき、責の一部を免れたいと思います。

私は昭和四十六年に原研を退職し、原子力コンサルティング会社を米国企業と一緒につくって主として国内の原発の安全性の仕事をしてきました。当時は国立機関から民間に転職することは珍しく、経済上の理由（給料が高くなる）からと誤解する人も多く現在と比べると隔世の感です。退職の理由は当時のI部長による私の研究の中止命令、私の研究が基礎的で原研の方針に合わないから不要とのことで、機器の運転が出来なくなり、もはや原研にいる意義がなくなりました。これも現在に比べると隔世の感です。

思わず愚痴がこぼれてしまいましたが。振り返れば原研にはいろいろとお世話になり楽しい思い出が数多くあります。真砂寮で夜中まで談笑した仲間、真っ黒に日焼けしたテニス仲間、何よりも夜遅くまで仕事に熱中した同志の方々…。私が原研を離れてからも自分の仕事を楽しみ、多少なりとも社会に還元できる仕事ができただのも、皆様のお陰であると心から感謝しております。

私はいま八ヶ岳の麓の森の中で自然とともに生活しています。晴耕雨読の日々の中で、まだ残している仕事があり、平穩のなかにも時折の緊張を楽しんでいます。

末筆ながら事務局の皆様感謝し、有意義な文集が出来上がることを願って居ります。

(代ワード入力：事務局)